

はにい 「でも、その理由が言えない」 平成28年5月31日

小学校1年生の算数の授業です。

しんじくんの前には4人ならんでいます。
しんじくんの後ろには3人ならんでいます。
全部で何人ならんでいるでしょうか。



子どもたちは、式と答えを考えて、自分のノートに書きます。

先生は、一人ひとりのノートを見てまわっています。

先生が $4+3$ 、 $4+1+3$ の2つの式を黒板に書くと、「えっ!」と子どもたち。
 $4+3$ と答えた子は8人いました。



「どうして、その式を考えたの?」と先生。
子どもたちは、その式を立てた理由を図に書いて説明します。

「この1は、しんじくんのことです。」
他の子の説明を聞いて、自分の式が足りなかったことに気付いた子がいます。

7人の子どもたちは、式を $4+1+3$ に書き直しました。

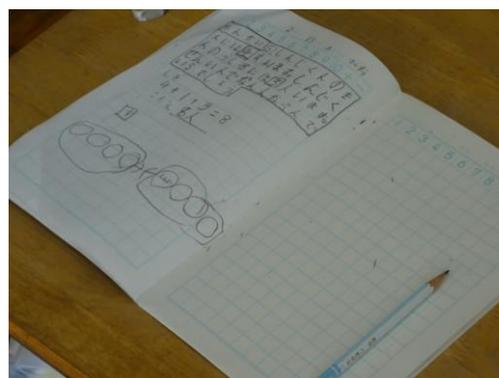
でも、Aさんはまだ、納得ができていません。

「Aさんは問題文に出ている数字を使ったのだと思います。」と他の子が説明します。

それをじっと聴くAさん。

そして、最後にAさんは、言いました。

「 $4+3$ じゃないと思う。でも、その理由が言えない。」



友達の説明を聞いて気付く。でも、どうしても自分の言葉で説明したい。
みんなで学び合うことでそれは実現します。